

2026年度 SSI（総探）

【第8回】

仮説の検証方法を考えてみよう



2026年6月30日（火）



夏休み前までの見通し

7月7日(火)に研究計画発表会を実施します！

段階	実施内容	日程	ノート	報告書
STEP1	研究テーマを決める	5/19	(1)(2)	(1)(2)
STEP2	リサーチクエスチョンを導く	5/26	(3)(4)	(3)①②
STEP3	仮説を立てる	6/16	(5)	(3)③
STEP4	適切な研究方法を選ぶ	6/23	(6)	(4)
中間目標	研究計画発表会準備	6/30	完成	(4)まで
中間目標	研究計画発表会	7/7	完成	(4)まで

プレ研究計画発表会 教室割

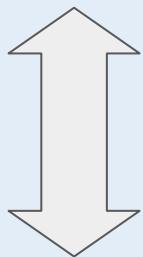
教室	発表チーム										
1組	108	207	301	401	501	601	609	701	801	901	911
2組	102	202	302	402	410	502	602	702	802	902	912
3組	103	206	208	303	403	503	603	703	803	906	
4組	104	109	204	304	404	504	604	704	804	904	
5組	105	205	305	405	409	505	605	705	805	905	910
6組	107	203	210	306	406	508	509	606	706	806	903
7組	106	201	307	309	407	412	507	607	707	807	907
8組	101	209	308	408	411	506	608	708	808	908	909

プレ研究計画発表会の大きな流れ

発表



ハキハキと！



誠実に！



相互
評価

発表時間：1チーム4分

- 研究テーマの説明
- 研究背景（研究動機や先行研究）
- リサーチクエスチョン
- 仮説と検証方法

分かりやすく！

明確に！

論理的に！

発表が終わるごとに評価

「課題研究ルーブリック」の8観点のうち、
4観点を4段階で相互評価

相互評価・自己評価



相互評価



【SS I】発表会相互評価フォーム

2026年7月7日(火)5-6限

SS I 前期ブレ探究研究計画発表会

★こちらのフォームは《相互評価》用です。



自己評価



【SS I】発表会自己評価フォーム

2026年7月7日(火)5-6限

SS I 前期ブレ探究研究計画発表会

★こちらのフォームは《自己評価》用です。

他のチームの発表を評価
発表を聞きながら、評価をして、
発表が終わるごとに送信をする。

自分のチームの発表を評価
発表の翌週の授業時に、
発表を振り返り送信をする。

課題研究ルーブリック表

観点／SSコンピテンシー	レベル4（卓越している）	レベル3（十分できている）	レベル2（概ねできている）	レベル1（改善を要する）
1. 構成の論理的一貫性 批判的思考力 表現力	目的から考察まで論理的に固く結びつき、一貫したストーリーを構成	全体の流れは明確だが、一部に論理の繋がりが弱い箇所がある	必要な要素は含むが、関係性の説明が不足し構成が断片的	各要素が点在し、論理的な構成がなく全体像を掴めない
2. 課題の背景と意義への理解 未知への好奇心 社会に関かれた姿勢	知的好奇心と社会背景が結びつき、多角的に課題を捉えている	意義は説明できるが、自身の問いを明確にしている点が見えない	意義の説明が抽象的で、なぜ自らが取り組むのかを説明していない	研究の意義や問題意識に至った背景が説明されていない
3. 問いと仮説の適切性 仮説構築力	先行研究に基き、独自の問いと仮説を構築し、検証可能な仮説を設定している	研究問いと仮説は課題の中心を捉えているが、検証の観点から課題の問いと仮説の間にずれがある	問いと仮説が不明確で、検証が困難	検証可能な仮説として具体化されず、研究の軸が不明確
4. 研究方法の妥当性 手続的知識 情報活用能力	最適な方法を比較検討し選択、手順を具体的にかつ明確に説明	適した方法を選択できるが、選択理由の吟味が不十分	方法は示すが手順の説明が曖昧で、誰でも実施できない	方法が仮説検証に繋がらず、信頼できるデータを得られない
5. 結果の解釈と考察の妥当性 批判的思考力 メタ認知能力	複数視点で客観的に分析し、研究の課題と今後の展望まで言及	論理的な考察はできるが解釈が一面的で、課題の分析に至らず	結果の説明はできるが考察不足で、単なる結果報告に留まる	結果と意見が混同し、客観的事実に基づく考察がない
6. 発表の明瞭性 表現力	聞き手を常に意識し、言葉・声・視線まで工夫した対話的発表	流れは分かりやすいが表現が単調で、聞き手への工夫不足	原稿に沿って説明するが、聞き手を意識せず一方的	資料を読むのみで声量不足等もあり、内容が伝わらない
7. 視覚的表現のデザイン性 表現力 情報活用能力	図表・配色点を強調し、視覚的に分かりやすくしている	図表・配色は課題の中心を捉えているが、視覚的な工夫が不十分	図表・配色が不明確で、視覚的な工夫が不十分	文字中心の構成で視覚的な工夫がなく、理解を妨げている
8. 質疑応答における対話力 批判的思考力 協働する力	質問意図を汲み取り、客観的に捉え直し根拠をもって応答	質問を理解し考えを答えるが、データとの関連付けが弱い	質問意図を正確に理解できず、一般的な意見での回答に終始	感情的応答や「分かりません」のみで、対話を深めない

研究計画書(1)-(4)部分

プレゼンテーション技術

研究計画
の
自己点検

発表
スキル
向上

2. 課題の背景と意義の理解

レベル4
(卓越している)

知的好奇心と社会背景が結びつき、
多角的根拠で意義を示す

レベル3
(十分できている)

意義は説明できるが、
自身の問題意識との繋がりが不十分

レベル2
(概ねできている)

意義の説明が抽象的で、
なぜ自分に取り組むのかが不明瞭

レベル1
(改善を要する)

研究の意義や問題意識に至った背景が
説明されていない

3. 問いと仮説の適切性

レベル4
(卓越している)

先行研究に基づき本質を捉えた
独創的で検証可能な仮説を設定

レベル3
(十分できている)

検証可能な仮説はあるが、
先行研究調査や独創性に課題あり

レベル2
(概ねできている)

仮説はあるが論理的根拠が弱く、
検証方法が不明確

レベル1
(改善を要する)

検証可能な仮説として具体化されず、
研究の軸が不明確

6. 発表の明瞭性

レベル4
(卓越している)

聞き手を常に意識し、
言葉・声・視線まで工夫した対話的発表

レベル3
(十分できている)

流れは分かりやすいが表現が単調で、
聞き手への工夫不足

レベル2
(概ねできている)

原稿に沿って説明するが、
聞き手を意識せず一方的

レベル1
(改善を要する)

資料を読むのみで声量不足等もあり、
内容が伝わらない

7. 視覚的表現のデザイン性

レベル4
(卓越している)

図表・配色を緻密に設計し、
要点を強調して説得力を高める

レベル3
(十分できている)

図表を用いて整理されているが、
重要情報の強調が不十分

レベル2
(概ねできている)

図表はあるが配置や情報量の調整が
不適切で理解しにくい

レベル1
(改善を要する)

文字中心の構成で視覚的工夫がなく、
理解を妨げている

本日の活動

STEP1	研究テーマを決める	4月
STEP2	リサーチクエスチョンを導く	5月
STEP3	仮説を立てる	6月 7月
STEP4	適切な研究方法を選ぶ	
中間目標	研究計画書を作成する	7月
STEP5	調査を実施する	9月
STEP6	結果をまとめて考察し、結論を導く	
STEP7	研究内容をまとめる	9月



この部分

プレ探究ノート
(6)まで完了

【STEP3】 仮説を立てる

仮説思考

先行研究調査が大事！

直面する課題に対して、明らかにになっている事柄に基づいて、
最初に「**仮説**」(仮の答え)を立て、
その仮説を**検証・修正**しながら問題解決を図る思考方法

仮説の設定

明らかにになっている
事柄から確からしい
仮説を立てる段階



仮説の検証

調査・実験に基づき、
仮説の正誤を
確認する段階



仮説の修正

仮説に誤りがあると
判明した場合に
それを修正する段階

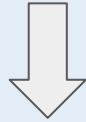
【STEP4】 適切な研究方法を選ぶ

文献調査 (★必須★)	どの研究においても必須。 単なる調べ学習に終わらぬよう、文献を批判的に読むことを心がけよう。
アンケート調査	目的を明示したうえで、得られる結果を想定しつつ、読み手にどう伝わるかを踏まえて綿密に練ろう。
インタビュー調査	事前に質問事項を練って、必要な情報を得られるようにしよう。アポを取る際には失礼のないように。
現地調査	長期休みなどを利用して事前に計画を立てて実施しよう。
シミュレーション	主に自然科学分野で行われる。 コンピュータを利用したシミュレーションで実験の代替が可能かどうか考えてみよう。

【STEP2~4】 これまでの内容を整理

研究全体で明らかにしたいこと

リサーチクエスチョン



仮説立案



仮説の検証方法の考察

プレ探究ノート(5)+(6)

リサーチクエスチョン	
仮説①	仮説②
仮説を立てた根拠①	仮説を立てた根拠②
仮説を検証する方法①	仮説を検証する方法②